

市民発 = まちづくりリレートーク in さがみはら

安心して暮らしたい！ 食 医療 福祉 教育 環境・・・
どう考えたらいいの？ 私にも言わせてよ！

2002年5月11日(土)午後2時～4時
プロミティーふちのべ

宗田 幸彦

(実行委員長 / センター事業団県央事業所長)

安心して暮らせる街づくりをテーマに、「まちづくりリレートーク in さがみはら」が開催されました。

昨年11月、相模原市が募集した商店街活性化プランに「空き店舗利用の地域福祉事業所づくり」という企画で地域福祉事業所「もみじ」が応募し入選したことが、今回の集いを企画するきっかけでした。この取り組みを通じて、改めて、「住み慣れたところで安心して暮らしつつげられるまちづくり」をテーマに、いろいろな分野で事業や運動をしている人たちが、意見を交換し、力をあわせてすすんでいくことや多くの人々へ賛同の輪を広げていくための機会が必要ではないかと痛感したからです。

これまで相模原市内では、パンの店 はじめ工房が営業をはじめたころ、食をテーマにシンポジウムを開催したことがあります。今回もそのときのネットワークを通じて実行委員会を作ることを呼びかけて1月に発足し、開催までに6回の実行委員会を開き、内容について深めてきました。

全部で11団体の報告は、実に多彩で、お互いの活動を知り合う機会ともなりました。



「はじめ工房」の藤田肇さんは、7年前に無添加・手づくりのパンの店を開店し、これまでのとりくみと、「心豊かな食生活」に対する熱い思いを語り、「鳩川・縄文の谷戸の会」の倉橋満知子さんが、自然保護や湧水を利用し谷戸田での米づくりを報告。

「たのし家」の滝口トミ子さんは、地域のたまり場をつくった実践を紹介。

地域福祉事業所「もみじ」の塩村一郎さんは、「地域で見る・社会で見る」という言葉を本物にするような実践にとりくんでいきたいと。

神奈川北央医療生協の中屋重勝さんは、「医療生協では、いま、地域に密着した保健・医療・福祉のネットワークづくりに力を入れている。相模原でも、住民の声をもとに、地域で産み、育て、看とることのできる助けあいのネットワークをつくりたい」と。

神奈川ゆめコープ相模センター長の佐藤雅彦さんは、「夏休み親子企画」や子育て情報の注文カタログへの掲載など、生協での子育て支援について紹介。

相模原市障害者地域作業所等連絡協の岸茂子さんは、「障害を持っていても、高齢になっても、住み慣れたまちで安心して暮らし続ける地域福祉の時代を切り開くため、より多くの人々と連携し、自らの実践を形にした」と報告しました。

なんでも新聞の高田勝也さんは、相模原の市民活動や暮らしに密着した情報を新聞やホームページに掲載し、発信している活動を紹介。

神奈川建設ユニオンの稲石武彦さんは、建設職人の技術を生かし、「PTAと結んだ木工教室」や「地域健康教室」のとりくみなどを紹介、職人の「ワーカーズコープ方式」をめざしていることにもふれました。

「どなべの会」の池田マリーサさんと三浦里佳さんは、同団体のとりくみ(外国籍住民の自助・生活サポート)を紹介。「いろんな材料を持ち寄ればおいしいスープができることになぞらえて、会の名前をつけた。国際結婚あるいは多文化親子・家族が孤独や引きこもり、不安から解放され元気になる活動をしている」と。

最後に青空農園の平本典夫さんが、相模原での食糧自給率を高めるための活動を紹介。「農業生産法人をつくり、米や野菜をつくりたいという人にも農地を開放し、新規就農支援も行っている」と報告しました。

山極さんの講演は、これらの報告を踏まえながら「等身大のライフエリア」と題しての話でした。安心して暮らせる街づくりとは？のイメージが、個々の実践との関係でわかり易く描き出されました。山極さんからの「今までの取り組みで、ここの取り組みが内容的にも開かれていて一番さわやかで、たのしいものでした。また、お役に立つことがあれば手伝わさせていただきます。」との激励は、疲れも飛ぶうれしいたよりでした。

寄せられた感想は、「報告の内容は実践に裏付けられており、良い話を聞いた」、「これからも継続してほしい」、「多様なジャンルの活動団体が集まるのは良い企画だこれを機会にネットワークができるとうれしい」、「とても勉強になった。」、「山極先生の話で、将来展望が開け参考になった。」というものでした。

労協が市民権を得ながら、仕事おこしに結び付けていくためにも、継続的な取り組みにしていきたいと思えます。